

ルック 五大陸 8 万キロの旅 (添乗)

1969年10月1日(水)～10月25日(木) 25日間

観光都市

バンコク、シドニー、シンガポール、
コペンハーゲン(乗換のための宿泊のみ)、
ロンドン、ローマ(+チボリ観光)、パリ、
アビジャン、ダカール、
リオ・デ・ジャネイロ(+パン・デ・アスーカル)
ブエノス・アイレス(+パラナ川遊覧)
ニューヨーク、メキシコ・シティ、
ロサンゼルス、(ホノルルは乗換のみ)

- ※① アビジャンはコートジボアール共和国の首都。現在ではヤムスクロが首都。英語でアイボリー・コースト、日本語で象牙海岸。
② ダカールはセネガル共和国の首都、アフリカ大陸の最西端。

通常の世界一周では、ほぼ東西に太平洋と大西洋を結び、日本～欧州間の太平洋経由と大西洋経由との2つのコースの往復運賃の1/2にして合算するのが通常であるがそれではこの5大陸ルートによる航空運賃は算出できない。旅行日数と費用とを考えたツアーとなりました。以下。

- ①大洋州はその盟主であるオーストラリアだけである。
②アジアの観光はシンガポールに限定している(バンコクもアジア～欧州のルートを次のコースにしたため、1泊だけで観光はない)
③オーストラリアから欧州を結ぶルートに、スカンディナヴィア航空のみが運行するバンコク～コペンハーゲンのルートを採用した。ヒマラヤ上空を飛ぶ異色のルートである。
④全体の日数を考えると欧州もコペンハーゲンで観光する余裕がない(乗換のためのだけの宿泊1泊)であり、ロンドン、ローマ、パリの3都市だけである。
⑤さて、アフリカはメインのエジプトを外し、アイボリーコーストのアビジャンである。実際には、治安も十分ではないが、観光には危険は感じなかった。
⑥もう一つのセネガルの首都ダカールは、かつて欧州の列強が獲得に争った都市で、南米の各都市との航空ルートが開かれており、そのためもあり選ばれた筈である。ダカールのベルデ岬の西にあり、列強が商品集荷基地として利用し、奴隷売買もなされたゴレ島にも行きたかったが時間の余裕もなかった。
⑦南米のリオデジャネイロとブエノスアイレスは当然の選択である(クスコやマチュピチュはまだ一般的な観光地として話題になる時代ではなかった)
⑧中米のメキシコ・シティも当然の選択である。米国の東西のニューヨークとロサンゼルスは妥当であり、休養のためのハワイは、この旅行は趣旨が違う。